

平成21年7月

平成21年度 大学職員情報化研究講習会～基礎講習コース～
グループディスカッション研修レポート

作成：A班 グループ名「和」

つながり～デジタルとアナログの共存～

●テーマと課題認識

テーマ【つながり～デジタルとアナログの共存～】

同じ大学内でも、部署間や教職員間、職員と学生などの間では様々な壁があり、組織内で業務を円滑に進めていくためのネットワークやシステムが存在しているにも関わらず、それらを有効に活用できていない現状がある。

情報の共有や協働体制、連携を強めていくためには、システムを整備するという「デジタル面」でのアプローチだけではなく、基本的な「人と人とのつながり」や「信頼関係」といった、「アナログ面」での情報共有（コミュニケーション）が重要なのではないだろうか、という点が討議テーマとなった。

●討議内容

まず、大学において「情報共有」の面でどのような問題点があるかを中心に討議する中で次のような事例が挙げられた。それに対し、大学ではどのような対策を行っているのか等を話し合った。以下がその一例である。

- ・PDCAのサイクルが働いておらず、特にC（Check）とA（Action）の部分が抜けて「やrippなし」になっている
- ・人と目を合わせて喋ることのできない学生が多い
- ・態度や言葉遣い、マナーの悪い学生が増えている
- ・部署間の連携が不足している
- ・他の部署の動きが分からない
- ・教員と学生の指導について擦れ違いがあるなど

話し合いを進めていく中で、それぞれ自身の大学・部署との違いや共通点について討議し、職員、教員、学生、また大学周辺の地域との間で、共通して「コミュニケーションが不足している」ことがこれら問題点の原因なのではないかという結論に至った。



次に、コミュニケーション不足として挙げられる問題点とその解決のための取り組みにどのようなものが考えられるかについて意見を出し合った。

	問 題 点	解決に向けての取り組み
職員⇄職員	・ 上下、横のコミュニケーションが希薄 ・ 他部署の動きや状況が分からない ・ 同じ部署内でも担当者しか仕事内容が分からない ・ 引き継ぎがうまくされていない ・ 他の担当の仕事に興味がない	・ ミーティングを行い情報交換する ・ 共通の目的を持つ ・ 短期的でも共通の目標を立てる ・ 定期的に業務の交換を行う
教員⇄職員	・ 必要な時にしか連絡を取り合わない ・ 教員の居場所がわからない ・ 対立意識がある ・ 学生の指導状況が分からない	・ 話をする時は短い用件でもメールではなく電話をする ・ 教員と学生の間に立つ ・ 教員に名前を覚えてもらう ・ 学生カルテを利用する ・ 知識を身につけ、信頼を深める
学生⇄職員	・ 時間がなく対応してあげられない ・ 部署間をたらいまわしにしてしまう ・ 距離感 ・ お互いの名前を知らない	・ 話を最後まで聞き、共感する ・ 挨拶をする ・ 学生が尋ねやすい雰囲気作り ・ ピアサポーターの導入、活用 ・ 名前を覚える
地域⇄職員	・ 公開講座やイベント等地域に向けた催しを行っても、一方的になりやすい ・ お互いに支え合う意識が低い	・ 共通の目的を持つ ・ 大学と地域が一緒にイベントの反省会を行うなど、交流の機会を増やす

● 提案内容・まとめ

上記をふまえ、「コミュニケーション不足を解決するための取り組み」として、教職員と学生そして地域のコミュニケーションの活性化を目的とした「クリーンキャンペーン」を事例として取り上げた。PDCA サイクルに則って、教職員、学生、そして地域住民が一つの目的に向かい、協力し合いながら触れ合うなかでお互いのことを知り合い、ともにイベント準備から当日までを振り返り、お互いにより良い関係を築いていくことを目的とするイベントである。「クリーンキャンペーン」はあくまで一例だが、お互いのために歩み寄り触れ合える機会を持ち、協力し合える関係を育んでいくことが大切なのではないかという結論に至った。

端末データを活用するといった「デジタル的」な情報共有の方法だけではなく、人と人とのつながりを深める「アナログ的」な方法を組み合わせるはじめて、真に必要な情報共有が可能となろう。以上のとおり、業務を円滑に進めるために必要な「つながり」を深めるための情報のあり方、共有方法についての提案を行った。